



薬とアルコールについて

薬を服用するとき、医師や薬剤師から「お酒と一緒に飲まないでください」と言われますが、飲み会の後でお薬をのんだり、ビールで風邪薬を飲んだことがある方も少なくないと思います。一緒に飲んでしまって、「特に問題なかったから大丈夫」とか、「お酒は百薬の長だから」などと、勝手に判断していませんか？ 薬の種類やお酒の量によっては影響が少ないものもありますが、中には大変危険なことがありますので、風邪気味なのに大事な接待があるからと、薬を飲んでから酒席に臨んだりするのは止めたほうがいいでしょう。では、お酒で薬を飲む行為はどんな危険性をはらんでいるのでしょうか？ そこで今回は、薬とアルコールの関係性について説明します。

薬は水で服用することを前提

基本的には水やお湯で飲んでください。アルコールやコーヒー、牛乳、グレープフルーツジュースなどで薬を飲むと、薬の効果に影響をあたえる場合があります。

薬やアルコールに限らず、口から摂取した物は基本的に胃で溶け、腸で血液に吸収されます。薬も、その多くが腸で血液の中に入り、肝臓に運ばれて分解されます。そして、ふたたび血流に乗って体内へ運ばれ、薬の効果を発揮します。

しかし、アルコールと薬をいっしょに飲むと、肝臓はアルコールの分解を優先的にこなうため、薬の分解に時間がかかります。そのため、薬の効果が強くなったり、弱くなったりして薬の副作用が出る場合があります。

また、薬を飲むときに水の量が少なすぎると、薬が食道にくっついて残ってしまうことがあります。コップ1杯程度の水で飲むといいでしょう。

アルコールと薬の相性

例えば、降圧剤（血圧を下げる薬）を服用している場合、アルコールにも血管を広げる作用があるため、血圧が下がりすぎてしまい、めまいや立ちくらみなどの症状が出る場合があります。

糖尿病の薬を服用している場合は、アルコールの作用と薬の血糖降下作用の相乗効果によって、低血糖状態（強い空腹、冷や汗、ふらつき、意識消失）になる場合があります。

また、そもそもアルコールはカロリーが高いので、糖尿病の方がアルコールを摂取する際には注意が必要です。

睡眠導入剤や精神安定剤を服用している場合は、アルコールの脳の働きを抑制する作用によって、薬の効果が強く出てしまうので、強い眠気や転倒などの原因になります。そのほかにも、ワーファリンなどの抗凝固剤（血液が固まって血管がつまるのを防ぐ）を服用している場合は、アルコールの影響で薬の分解が遅れてしまい、薬の効果が強く出てしまいます。そのため、ケガなどをして出血した際に血が止まらなくなる原因になります。

参考資料：薬とアルコールの飲み合わせの例

1. アルコールにより薬剤の血中濃度が高まり、作用が増強し副作用も発現する危険性がある。

相互作用にかかわる主な薬物	代表的な薬物名
精神神経薬 ベンゾジアゼピン系薬	ジアゼパム(催眠鎮静剤・抗不安薬)
精神神経薬 三環系抗うつ薬	アミトリプチリン(精神神経用剤)
解熱鎮痛薬	アセトアミノフェン(解熱鎮痛薬)

2. アルコールにも中枢神経抑制作用があるため、作用が増強する可能性がある。

相互作用にかかわる主な薬物	代表的な薬物名
精神神経薬	カルバマゼピン(抗てんかん薬) フェニトイン(抗てんかん薬)

3. アルコールの分解を抑制しアルコール代謝に影響を及ぼし頭痛、嘔吐、顔面紅潮など不快な作用が増強する可能性がある

相互作用にかかわる主な薬物	代表的な薬物名
抗菌薬	セフメタゾール(抗生物質製剤) フラジール(抗原虫製剤)

4. 血管拡張作用が増強し、血管拡張作用による起立性低血圧や失神が起こる危険性がある。

相互作用にかかわる主な薬物	代表的な薬物名
狭心症治療薬	ニトログリセリン(血管拡張剤)

アルコールは他の食品とは異なり、消化を受けることなく胃や腸から吸収されます。吸収は一般的に早く、30分から2時間ほどで血中濃度は最高となり、その後直線的に下がってゆきます。適量でしたら危険性は少ないですが、時間をずらして服用してください。1日1回服用する薬の場合には服用時間を朝に変更出来ないか、薬剤師に相談してみましょう。

参考：くすりの適正協議会、全日本民医連薬の話

しいのみ薬局	関市上白金 105-1	☎0575-27-0130	Fax 0575-27-0131
しいのみセンター薬局	岐阜市北山 1-14-27	☎058-241-1818	Fax058-241-1839
華陽しいのみ薬局	岐阜市祈年町 1-19-2	☎058-271-1640	Fax058-275-1949
南しいのみ薬局	岐阜市芥見南山 2-8-47	☎058-244-2112	Fax058-244-2110

☆お薬や「健康食品」のことなどに関して、ご相談もお受けしています。お気軽にご相談下さい。

ファルマネットぎふ ホームページ(<http://gifu-min.jp/pharma.>)